

	学校だより No.6 青森市立佃小学校 令和3年8月27日発行	全校児童数466名 男子 223名 女子 243名
	◆教育目標◆ あかるく・かしこく・たくましく	

実りの季節に向けて

校長 山田 彰利

33日間の夏休みが終わり、学校に子供たちの元気な姿が戻ってきました。この夏休み期間中、大きな事故や怪我もなく、お陰さまで、無事に教育活動を再開することができました。保護者及び地域の皆様方のご支援ご協力に厚く御礼申し上げます。

さて唐突ですが、7月に、「2020年じゃらん宿泊旅行調査」の結果が発表されました。観光客へのアンケートを基にした、項目別都道府県魅力度ランキングで、青森県は、なんと9項目中5項目でトップ10入りでした（右表）。その中には、「地元の人ホスピタリティを感じた」という、県民性・お人柄を評価されたような、なんかこそばゆい、うれしい結果もあります。

地元ならではのおいしい食べ物が多い	第6位
魅力のある特産品や土産物が多い	第6位
地元の人ホスピタリティを感じた	第3位
現地で良い観光情報入手できた	第8位
ご当地ならではの体験が楽しめた	第7位

ところで、私たち自身は、こうしたよさをどのくらい自覚できているのでしょうか。「ホスピタリティが素晴らしい」と言われても、「え、当たり前のことをしてるだけだし…」なんて謙遜するのが青森県民なのではないでしょうか。でも、おもてなしの心、全国7位なのです。自信をもってよいはずです。

近年、子供たちの「自尊感情」や「自己肯定感」の低下が課題となっています。特に諸外国と比較したとき、日本の子供の数値の低さは際立っているそうです。本校でも、何をやっても自信がない…、新しいことにはなかなか挑戦できない…、授業中「間違い」を恐れるあまり、自分の意見をなかなか発表できない…、そんな子が少なくありません。

私どもも、子供たちの自尊感情・自己肯定感を上げていこうと、できるだけその子のよさを認めていこう、褒めていこうという姿勢で接しています。ただ、私の経験から、むやみに褒めるだけでは子供は自分に自信をもって行動するところまでは行きません。

ありがちなのが、結果だけを「よくがんばったね。」と褒める行為。これはこれでうれしいものですが、子供なりにがんばっているのに結果が伴わない、そんな姿も認めてほしいのです。大切なのは結果・成果の如何にとらわれず、努力する姿を認めること、さらに述べると、その努力しようとしている思い、こうした姿や思いを認めてあげることが大切なのではないでしょうか。

これによって子供たちには、自分自身を認めてもらっているという安心感が芽生えますし、その結果、自分に自信をもって過ごしていけるようになるのではないのでしょうか。

子供たちが自信をもって毎日を送れるよう、「あなたのよさはここだよ」と、たくさんの前向きな言葉掛けをしていきたいと思っております。そして、文字通り実りの秋になるよう、長い目で手を掛け、目を掛け、心を掛けて参ります。これまで同様、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

